

教員の自己成長を支える「しかけ」としてのパターン・ランゲージ ——「実務家教員のためのパターン・ランゲージ」を例として

山本絢子¹⁾、今井桂子²⁾、柘植雅則²⁾、山口圭治²⁾、伴野崇生²⁾

社会構想大学院大学 先端教育研究所¹⁾

社会構想大学院大学 実務教育研究科²⁾

1. 本ワークショップの目的

本ワークショップでは、「実務家教員のためのパターン・ランゲージ —新しい道を切り拓いていくための24のことば—」(実パタ:伴野・正井・阿部 2023)と呼ばれるパターン・ランゲージによるワークショップの可能性について体験的に理解することを目的とする。パターン・ランゲージは、実践知やコツと呼ばれるものを一定の形式で記述したものであり、実パタでは熟達した(研修講師4名を含む広義の)実務家教員17名の暗黙知・経験知を言語化・体系化した。

本ワークショップへの参加には、単に実パタについて理解し実務家教員の暗黙知・経験知に触れることができるのみならず、パターン・ランゲージという手法そのものの体験という意義もある。自身が実務家教員かどうか、あるいは実務家教員に興味があるかどうかに関わらず、広く教育に関わる方々の参加を期待する。

2. 教員の自己成長を支える

教員の自己成長を支えることは重要である。

諸富(2017)は、教育カウンセリングの重要性について主張する文脈において「教育は人格形成の営み」であり、「まず教師自身が、自らの自己形成、自己成長に取り組んでいかななくてはならぬ」と指摘する。これは、あらゆる教員にとって——実務家教員かどうか、高等教育かどうか、教育の対象が誰かといったことに関わらず——同様のことが指摘できるだろう。

豊田(2022)はショーンのダブルループ学習理論を発展させ、日本型省察的実践のモデルを提案する。経験知のみをもとにした省察が同じ実践共

同体内部の知識の移動にとどまることを指摘し、知識の抽象度を自覚的に調節しながら個人内及び個人間で問題解決のための省察的対話ができる人の重要性を示す。他者との対話や振り返りの機会を確保した協働的な学びや、理論と実践を往還させた省察力による学びの重要性は、中教審答申(2022)でも指摘されているところである。

3. パターン・ランゲージとは

ある分野における豊かな経験を持っている人たちの暗黙知や経験則、あるコミュニティが共有する価値観は、形式知として言語化・体系化されているとは限らない。パターン・ランゲージは、そのような暗黙的な知識の認識、言及、共有を支援する(黒田・伊作・木下・田中・伴野・鍋島 2022)。

パターン・ランゲージは、1970年代に建築家クリストファー・アレグザンダーが住民参加のまちづくりのために提唱した知識記述の方法である。「パターン」は、いわば文法のようなものをもっており、決まったルールで記述される。一定の記述形式で秘訣を記することによって、パターン名(名前)に多くの意味が含まれ、それが共通で認識され、「言葉」として機能するようになる。パターン・ランゲージを学びに取り入れると、学び手それぞれが自分の状況や個性などに合わせてヒントを取り入れ、自分らしく実践したり、成長したりしていくことができる(クリエイティブ・シフト Web サイト「パターン・ランゲージとは」)。

4. 実務家教員のためのパターン・ランゲージ

「実パタ」は「新しい道を切り拓くための24のことば」でできている。24のことばは3つのカテ

ゴリ、「A 教育界でなにをするのか」「B 実務家教員として価値を出す」「C 未来での活躍をプロデュースする」からなる。まず、「A 教育界でなにをするのか」は「未来のつくり手を育てる」「次世代に伝えるべきことを定める」という2つのグループに分かれる。また、「B 実務家教員として価値を出す」は「自分のドメインを確立する」「人とつながり続けて強化する」「研究もすることで社会に役立てる」という3つのグループに分かれる。さらに、Cは「教えるということも探究する」「いきいきとした学びを提供する」「未来へ送り出す」という3つのグループからなる。以下、冒頭部分である「A 教育界でなにをするのか」の「未来のつくり手を育てる」の一部を例として示す。

【新しい道(No.1):その先にはどんなことが待っているのだろうか】実務家教員になることに興味をもっているときに、「大学の先生」というなんとなくのイメージでこの仕事を考えてしまうと、いざその世界に入ったときに挫折したり後悔したりするかもしれません。そこで、仕事の目的だけでなく生活スタイル等も大きく変わるということを理解し、まったく新しい世界に入っていきののだという認識を持ちます。

【育てる人(No.2):これからの社会の担い手をはぐくむ】実務家教員という仕事について考えているときに、自分が知っていることを教えればよいだろうと思ってしまうと、学生には役立たないことを教えていくことにつながってしまうかもしれません。そこで、自分の培ってきた経験や知見をもとに、今後の社会をつくっていく人材を育てるのだと捉えます。

【社会課題への別アプローチ(No.3):これからもその使命感は持ち続ける】実務家教員のイメージが持てるようになってきたときに、これまで成果を積み上げていくことで得られていたやりがいや自信などが、教育界に入ると得られにくくなってしまうのではないかと不安に思ってしまう。そこで、社会を良くしていこうという思いや姿勢をこれまでと同じく大切にし、これからは教育を通じて社会課題の解

決に寄与していくのだと考えます。

5. まとめ

以上、本稿ではパターン・ランゲージという方法と「実パタ」について概観した。

本ワークショップでは「実パタ」を通じた省察と対話のワークを行う。「実パタ」という鏡を通じた自己省察を行い、他者を鏡として省察をより深めていく中で、教員の自己成長を支える「しかけ」としてのパターン・ランゲージの意義を体感する機会を提供したいと考えている。

参考文献：

黒田史彦・伊作太一・木下直子・田中久実・伴野崇生・鍋島有希(2023)「外国人材との協働コミュニティをつくるためのパターン・ランゲージの全体像とその作成過程」『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』38, pp.21-40

クリエイティブ・シフト Web サイト「パターン・ランゲージとは」<<https://creativeshift.co.jp/pattern-lang/>> 2023年11月2日最終閲覧

中央教育審議会(2022)『『令和の日本型学校教育』を担う 教師の養成・採用・研修等の在り方について ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～ (答申)』

伴野崇生(2023)「『実務家教員のためのパターン・ランゲージ—新しい道を切り拓いていくための24のことば—』の作成過程と全体像」『実務教育学研究』2, pp.27-44

伴野崇生・正井美穂・阿部有里(2023)「実務家教員のためのパターン・ランゲージ—新しい道を切り拓いていくための24のことば—」『社会構想研究』5(1), pp.29-88

豊田香 (2022) 『社会人大学院教育がひらく科学的知識創造—トリプルループ学習理論—』新曜社
諸富祥彦(2017)『教師の自己成長と教育カウンセリング—教師の人生はミッションとパッションだ』図書文化